

研究協力をお願い

社会医療法人社団 順江会 江東病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

Initial Management of Obturator Hernia in Generalist Practice: A Single-Center Retrospective Study 総合診療における閉鎖孔ヘルニアの初期管理 単一施設後方視的研究	
1. 研究の対象および研究対象期間 2015 年 1 月 1 日～2025 年 12 月 31 日までに、江東病院で閉鎖孔ヘルニアと診断された患者さん。	
2. 研究目的・方法 閉鎖孔ヘルニアは高齢・痩せ型女性に多い稀な疾患であり、症状が非特異的で身体診察所見に乏しいことから、総合診療・救急外来など初期対応の場で見逃されやすい。診断遅延は腸管虚血・壊死、腸切除、重篤な転帰につながり得るため、初期診療における適切な臨床推論、CT による早期診断、整復術の検討を行い、適切なタイミングの外科介入が重要である。 本研究は、当院における閉鎖孔ヘルニア症例を後方視的に解析し、初期管理（初期評価、画像診断、整復術を含む治療方針決定まで）の実態と成績を明らかにすることを目的とする。	
3. 研究期間 江東病院倫理委員会審査後、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから 2028 年 12 月 31 日まで	
4. 研究に用いる試料・情報の種類 年齢、性別、身長・体重/BMI、併存疾患、既往歴、ADL 等（取得可能な範囲） 初期診療情報：受診契機、主訴、症状（腹痛、嘔吐等）、身体所見、バイタルサイン、初期検査（血液検査など） 画像診断：CT 等の実施状況と所見（閉鎖孔ヘルニア所見、腸管虚血・絞扼を疑う所見等）、画像実施までの時間 初期管理：手術までの時間、保存的対応や用手整復の実施有無（実施されている場合） 治療内容：術式、アプローチ、腸切除の有無、メッシュ使用の有無等 転帰：術後合併症、入院期間、再発、院内死亡等	
5. 外部への試料・情報の提供 該当いたしません	
6. 研究組織 研究責任者：外科（非常勤医師） 平井 隆仁 （昭和医科大学医学部総合診療医学講座 講師） 研究分担者：外科 部長 小池 礼子	

救急部（非常勤医師）	垂水 庸子（昭和医科大学医学部総合診療医学講座 准教授）
外科 副院長	加藤 博久
外科 副部長	草野 智一
外科	金子 卓嗣
外科 医長	堀江 智子
初期臨床研修医	畠 実久
昭和医科大学外科学講座消化器・一般外科学部門 教授 青木 武士	

7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

所属：社会医療法人社団 順江会 江東病院 外科（非常勤）

住所：〒136-0072 東京都江東区大島 6 丁目 8-5

電話番号：03-3685-2166

研究責任者：平井 隆仁

連絡先：社会医療法人社団 順江会 江東病院 合同医局 医局事務